

日 程

9月16日(土)

- | | | |
|---------------|----------------------|-------------|
| ◆ 学会賞選考委員会 | ミーティングルーム | 11:30-13:00 |
| ◆ 各種委員会 | 各教室 | 13:00-14:30 |
| ◆ 開会式 | 法学部1番教室 | 14:30-14:40 |
| ◆ 公開シンポジウム | 法学部1番教室 | 14:40-17:40 |
| テーマ「死者と生者の接点」 | | |
| 講演 | 宮家 準 (慶應義塾大学名誉教授) | |
| | 藤井 正雄 (大正大学名誉教授) | |
| | 山形 孝夫 (宮城学院女子大学名誉教授) | |
| 司会 | 華園 聰麿 (東北大学名誉教授) | |
| ◆ 理事会 | 文系総合研究棟大会議室 | 18:00-20:30 |

9月17日(日)

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| ◆ 研究発表(個人) | 各教室 | 9:00-12:40 |
| ◆ 評議員会 | 文系総合研究棟大会議室 | 12:40-14:00 |
| ◆ 研究発表(パネル) | 各教室 | 14:00-16:00 |
| ◆ 会員総会 | 法学部1番教室 | 16:20-17:40 |
| ◆ 懇親会 | 東北大生協川内店第一食堂 | 18:00-20:00 |

9月18日(月・祝)

- | | | |
|-------------|------|-------------|
| ◆ 研究発表(パネル) | 各教室 | 9:00-11:00 |
| ◆ 研究発表(個人) | 各教室 | 11:05-12:40 |
| ◆ 編集委員会 | 中会議室 | 12:40-13:30 |
| ◆ 研究発表(個人) | 各教室 | 13:30-17:35 |

1 部会

17 日(日)

1.	9:00- 9:20	宗教学の方法としての宗教間対話?—多元主義世界の中で—	山梨有希子 (大正大)
2.	9:25- 9:45	宗教と利他主義—現代社会の新たな動きの分析—	稲場 圭信 (神戸大)
3.	9:50-10:10	宗教研究の理解的方法をめぐって—沈善瑛氏のコメントに寄せて—	丹羽 泉 (東京外国語大)
4.	10:15-10:35	近代宗教論の詩学—宗教をめぐる言説のスタイルと近代—	岡田 正彦 (天理大)
5.	10:40-11:00	神学としての神話(学)	松村 一男 (和光大)
6.	11:05-11:25	死における人と思想—スピノザ、福沢諭吉、ハイデガー—	浅野 章 (日大)
7.	11:30-11:50	長い時と短い時—死を受けとめる情緒の多様について—	戸島貴代志 (東北大)
8.	11:55-12:15	死と他界について—人間の存在構造を問う視点より—	棚次 正和 (京都府立医科大)
9.	12:20-12:40	信仰の論理と擬態のメカニズム	平野 孝國 (新潟大)

14:00-16:00	パネル:近代日本と宗教学—複数性と系譜をめぐって— 東京大学の宗教学の系譜—戦前を中心に— 規範的宗教理論と構造的宗教理論の相互関係 京都学派の宗教哲学と宗教思想 戦後宗教学の展望—信仰と知のあいだ— 「宗教学」のなかの民俗・民衆宗教研究	代表者:林淳, 6名, 120分 高橋 原 (国際宗教研究所) 島藪 進 (東大) 岩田 文昭 (大阪教育大) 磯前 順一 (日本女子大) 池上 良正 (駒大) 林 淳 (愛知学院大)
	コメンテータ・司会	

18 日(月)

午前 9:00-11:00

パネル:近代日本における死をめぐる語りと表象 近代日本の死の諸相と幼子の死をめぐる語り 監禁施設の中の死—日本近代における精神病者の処遇をめぐって— 演じられた死について 教祖の〈死〉の近代 兵士の死をめぐる展示	代表者:川村邦光, 6名, 120分 川村 邦光 (阪大) 兵頭 晶子 (日本学術振興会) 畑中小百合 (阪大) 永岡 崇 (阪大) 丸山 泰明 (神奈川大) 石附 馨 (阪大) 川村 邦光 (阪大)
コメンテータ 司会	

1.	11:05-11:25	心理学的死生観の展開	堀江 宗正 (聖心女子大)
2.	11:30-11:50	回心の比較研究—「コンバージョン」と「タウバ」—	徳田 幸雄 (東北大)
3.	11:55-12:15	禅僧修行の構造と意味	大村 哲夫 (東北大)
4.	12:20-12:40	身体論としての修行論—湯浅泰雄の貢献—	渡辺 学 (南山大)

午後

1.	13:30-13:50	日本宗教学におけるエリアーズ受容とその展開	佐藤慎太郎 (東北大)
2.	13:55-14:15	I.P.クリアーノにおける宗教学の展開	佐々木 啓 (北大)
3.	14:20-14:40	イタリア宗教史学の諸問題	江川 純一 (東大)
4.	14:45-15:05	ハイラーの宗教思想と宗教運動	宮嶋 俊一 (大正大)
5.	15:10-15:30	ユベール・モース供犠論の生成	山崎 亮 (島根大)
6.	15:35-15:55	プラグマティズムと宗教倫理	飯田 篤司 (鎌倉女子大)
7.	16:00-16:20	宗教はロマンスか—ジェイムズ宗教論の可能性—	筒井 史緒 (関西外国語大)
8.	16:25-16:45	Felix Adler と Ethical Culture	庄司 一平 (東北大)
9.	16:50-17:10	宗教言語ゲーム論における超越論的存在の位置付けについて	松野 智章
10.	17:15-17:35	現代日本の宗教学と非合理性—定義・生命主義・古層・現象学—	池田 昭

17日(日)

1.	9:00- 9:20	絶対無と宗教	藤城 優子	(日大)
2.	9:25- 9:45	「純粹経験」から「自覚」へー初期西田哲学の展開ー	池田 等	(千葉日大一高)
3.	9:50-10:10	即非の論理と絶対矛盾的自己同一	青木 久美	(沖縄工業高専)
4.	10:15-10:35	滝沢克己における不可逆概念の形成過程について	福山 俊	(日大)
5.	10:40-11:00	ニヒリズムが成立する前提についての考察	沖永 宜司	(帝京大)
6.	11:05-11:25	ヒルデガルド・フォン・ビンゲンのヴィジョン	細田あや子	(新潟大)
7.	11:30-11:50	プラトンにおける神々から人間への働きかけ	土井 裕人	(筑波大)
8.	11:55-12:15	ピコ・デラ・ミランドラにおける宇宙と人間	比留間亮平	(東大)
9.	12:20-12:40	ジョン・ヒック自伝にみる AFFOR の活動	間瀬 啓允	(東北公益文科大)

14:00-16:00	パネル: オットー宗教学とその背景ー非キリスト教文化との出会いー	代表者: 華園聰麿, 4名, 100分
	オットーのオリエン特体験	前田 毅 (鹿児島大)
	非キリスト教的ドイツの中のオットー	久保田 浩 (立大)
	オットーのインド宗教論とそのコンテクスト	澤井 義次 (天理大)
	コメンテータ・司会	華園 聰麿 (東北大)

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル: 中世キリスト教思想界における他宗教理解の諸相	代表者: 八巻和彦, 5名, 120分
アベラールにおける宗教間対話の基礎	矢内 義顕 (早大)
ロジャー・ベーコンと異教	降旗 芳彦 (実践女子大)
モーゼス・マイモニデスの宗教観	山我 哲雄 (北星学園大)
クザーヌスにとつての宗教寛容ー『信仰の平和』を中心にー	佐藤 直子 (上智大)
コメンテータ・司会	八巻 和彦 (早大)

1.	11:05-11:25	ルソーの死生観	中村 博武	(プール学院大短大部)
2.	11:30-11:50	永遠に失われたものとしての死ーメルロ=ポンティをてがかりとしてー	松田健三郎	(天理大)
3.	11:55-12:15	シェリング哲学における死と救いについて	諸岡道比古	(弘前大)
4.	12:20-12:40	ノヴァーリスにおける「死」の意義	田口 博子	(工学院大)

午後

1.	13:30-13:50	戦間期フランス・プロテスタント左翼運動と若きリクールの実践	川口 茂雄	(東大)
2.	13:55-14:15	ポール・リクールと「物語神学」	長谷川琢哉	(京大)
3.	14:20-14:40	ジャン・ナベールにおける「神の欲望」	山内 誠	(京大)
4.	14:45-15:05	ガブリエル・マルセルにおける「誠実」と「固執」	小林 敬	(酪農学園大)
5.	15:10-15:30	ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』第1章「道徳的責務」について	環 栄賢	
6.	15:35-15:55	F.スアレスにおける「純粹本性」概念	林 伸一郎	(明星大)
7.	16:00-16:20	キルケゴールと呪詛ー罪の土俗化ー	中里 巧	(東洋大)
8.	16:25-16:45	キルケゴールにおける「内面性」の問題	須藤 孝也	(一橋大)
9.	16:50-17:10	E.カッシーラーの「神話的意識の批判」の意義	小野 真	(京大)
10.	17:15-17:35	ブーバーとヤスパースー信仰における自由をめぐってー	布施 圭司	(米子工業高専)

3 部会

17日(日)

1.	9:00-9:20	パウロにおける人間の死と復活と栄化	野口 誠	
2.	9:25-9:45	ユリアヌスの「葬儀と墓地に関する勅令」(363年)にみる死生観	中西 恭子	(明治学院大)
3.	9:50-10:10	シナイの聖カタリナ修道院院長ヨアンネス・クリマクスの「静寂」	久松 英二	(神戸海星女子学院大)
4.	10:15-10:35	弟子像再構築ブームに寄せて—マリア福音書とユダ福音書—	新免 貢	(宮城学院女子大)
5.	10:40-11:00	シャブタイ派運動における神秘思想の多様性	山本 伸一	(東大)
6.	11:05-11:25	F.ローゼンツヴァイクにおける歴史と政治	佐藤 貴史	(聖学院大)
7.	11:30-11:50	フランツ・ローゼンツヴァイク『贖いの星』における時間の問題	丸山 空大	(東大)
8.	11:55-12:15	エマニュエル・レヴィナスにおけるタルムード学の意義	市川 裕	(東大)

14:00-16:00	パネル: 宗教における「語りえぬもの」と「示しうるもの」	代表者: 落合仁司, 6名, 120分
	人文科学研究におけるモデル化の意義	渡辺 光一 (関東学院大)
	ワイトゲンシュタインとナーガールジュナの言語観	星川 啓慈 (大正大)
	哲学的存在論・宗教的無限論・数学的集合論	落合 仁司 (同志社大)
	宗教言語の可能性と限界	島田 裕巳 (東大)
	コメンテータ	土井 裕人 (筑波大)
	司会	岩井 洋 (関西国際大)

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル: 宗教学と神話研究—方法論的な多様性をめぐって—	代表者: 松村一男, 5名, 120分
歴史的関係か独立発生か—似た神話の説明原理をめぐる諸問題—	山田 仁史 (東北大)
神話語りと芸術的表現—ハイダの芸術家ビル・リードを例にして—	木村 武史 (筑波大)
日本神話の中世における展開—いわゆる「中世神話」をめぐって—	新井 大祐 (國學院大)
現代日本と神話—現代宗教論との関わりから—	平藤喜久子 (國學院大)
コメンテータ・司会	松村 一男 (和光大)

1.	11:05-11:25	D.ボンヘッフアーの実存的問い—獄中詩「私は何者か?」—	岡野 彩子	(大阪外国語大)
2.	11:30-11:50	M.ラーデのリベラルナショナリズム	深井 智朗	(聖学院大)
3.	11:55-12:15	ル・フォールと平和	八木 博	(山梨大)
4.	12:20-12:40	無教会主義に見られる「預言者的行為」をめぐる争点	佐藤さおり	(東京外国語大)

午後

1.	13:30-13:50	ティリッヒと宗教社会主義	芦名 定道	(京大)
2.	13:55-14:15	アンセルムスの探求—悪と aliquid—	山崎 裕子	(文教大)
3.	14:20-14:40	リュースブルクによるエックハルト批判について	菊地 智	(早大)
4.	14:45-15:05	マイスター・エックハルトの実践的人間像の理論的基盤について	阿部 善彦	(上智大)
5.	15:10-15:30	マイスター・エックハルトにおける始原への問い	加藤希理子	(京大)
6.	15:35-15:55	『ドイツ神学』における神秘的合一観について	岡部 雄三	(東大)
7.	16:00-16:20	フランシスコ・デ・オスーナの「内的潜心」論	鶴岡 賀雄	(東大)
8.	16:25-16:45	現代ドイツにおけるイエス研究	石川 智子	(ババロイト大)
9.	16:50-17:10	K.バルト全集の現状とその研究上の意義について	掛川 富康	(茨城キリスト教大)
10.	17:15-17:35	M.ブーバーにおける宗教社会主義思想について	堀川 敏寛	(京大)

4 部会

総 306

17日(日)

1.	9:00- 9:20	扶鸞による經典—中華民国期宗教結社を例に—	宮田 義矢 (東大)
2.	9:25- 9:45	中華民国時代の中国における密教復興と日本仏教の役割	エリック・シッケタンツ (東大)
3.	9:50-10:10	前近代東アジアと inter-religious experience	濱田 陽 (帝京大短大)
4.	10:15-10:35	明治の仏教的精神療法—平井金三『三摩地』を中心に—	吉永 進一 (舞鶴工業高専)
5.	10:40-11:00	近代曹洞宗における仏教婦人	熊本 英人 (駒大)
6.	11:05-11:25	清沢満之と汎神論	日野 圭悟 (大谷大)
7.	11:30-11:50	井上円了の教団観—教団を去った仏教者の視点—	高山 秀嗣 (武蔵野大)
8.	11:55-12:15	祈りの類型論とその批判的文脈—鈴木大拙の神道・国学批判—	黒崎 浩行 (國學院大)
9.	12:20-12:40	鈴木大拙の“靈性”三部作の意義とその問題点	和田 真二 (帝塚山学院大)

14:00-16:00	パネル: 他性と媒介—京都学派とフランス哲学—	代表者: 佐藤啓介, 6名, 120分
	種的社会的展開—田辺元とフランス社会思想—	伊原木大祐 (日本学術振興会)
	否定する愛—田辺・波多野・マリオンと存在愛論—	佐藤 啓介 (京大)
	ベルグソンと西田	片柳 榮一 (京大)
	時間と他者—レヴィナスと波多野の比較考察—	山口 尚 (大阪工業大)
	コメンテータ	松丸 壽雄 (獨協大)
	司会	川口 茂雄 (東大)

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル: 戦前における民衆宗教の布教実践	代表者: 幡鎌一弘, 6名, 120分
みかぐらうたの救い	堀内みどり (天理大)
地域の経済・生活秩序の変容と信仰受容の諸相	児山 真生 (金光教学研究所)
天理教教会文書から見た明治期における実践活動	幡鎌 一弘 (天理大)
明治期大阪における金光教布教者の師弟関係の構築	福島 信吉 (昭和大)
地方で布教すること—ある『信仰日記』を手がかりに—	土居 浩 (ものつくり大)
コメンテータ・司会	佐藤 浩司 (天理大)

1.	11:05-11:25	仏教とユニテリアン	星野 靖二 (日本学術振興会)
2.	11:30-11:50	新渡戸稲造の殖民思想に関する一考察	森上 優子 (お茶の水女子大)
3.	11:55-12:15	森有正の「経験」思想—存在論的証明の理解の変遷—	釘宮 明美 (白百合女子大)
4.	12:20-12:40	戦時下外国ミッション教育の危機—立教首脳と母教会の動向—	大江 満 (立大)

午後

1.	13:30-13:50	中江藤樹と死	鈴木 保實 (愛知県立旭陵高)
2.	13:55-14:15	石田梅岩の「心」観	長崎 誠人 (近大)
3.	14:20-14:40	元文の宗教法難と伊藤玄基の生涯について	岩田 諦静 (身延山大)
4.	14:45-15:05	18世紀知識人における神霊観の展開—宣長・秋成から篤胤へ—	井関 大介 (東大)
5.	15:10-15:30	研究史における平田篤胤像	遠藤 潤 (國學院大)
6.	15:35-15:55	明治十年代の新聞における主権論と天皇観	小川 有閑 (東大)
7.	16:00-16:20	波多野精一と敗戦—その「明治」認識をめぐって—	村松 晋 (聖学院大)
8.	16:25-16:45	柳宗悦の宗教理解—『茶と美』を中心に—	李 勝鉉 (東大)
9.	16:50-17:10	山頭火の生死観	新保 哲 (文化女子大)
10.	17:15-17:35	日本の社会契約の起源	永井 隆之 (仙台大)

5 部会

文 313

17 日(日)

1.	9:00- 9:20	『阿毘曇心論』業品における三妙行と三満行について	智谷 公和	(相愛大)
2.	9:25- 9:45	原始仏教に於ける「死」と「不死」と「涅槃」の問題	服部 弘瑞	(国際仏教学大学院大)
3.	9:50-10:10	無記と死後の問題	三友 健容	(立正大)
4.	10:15-10:35	〈無量寿経〉における一生補処位についての一考察	弘中 満雄	(龍大)
5.	10:40-11:00	竺法護訳の無量寿経と覚賢、宝雲による改訂	後藤 義乗	(広島真宗学寮)
6.	11:05-11:25	『往生論註』における十念と称名について	石川 琢道	(大正大)
7.	11:30-11:50	善導『観経疏』所説の三縁釈について	柴田 泰山	(大正大)
8.	11:55-12:15	金剛寺本『餓鬼報応経』について	池 麗梅	(国際仏教学大学院大)
9.	12:20-12:40	宋代天台教学における『天台四教儀』の意義	林 鳴宇	(東京電機大)

18 日(月)

午前

1.	11:05-11:25	戦国時代の死者と土地神の祭祀—河南新蔡葛陵楚墓の卜筮祭祷簡—	池澤 優	(東大)
2.	11:30-11:50	孝経緯考	清水 浩子	(大正大)
3.	11:55-12:15	中国江南のプロアスター教の可能性	青木 健	(日本学術振興会)

午後

1.	13:30-13:50	宗教学におけるサティール研究の意義について	田中 鉄也	(関西大)
2.	13:55-14:15	インドの弁証法に於ける帰納推理	木村 俊彦	(四天王寺国際仏教大)
3.	14:20-14:40	初期不二元論学派の大文章解釈	佐竹 正行	(東洋大)
4.	14:45-15:05	シャンカラによる atman という語の用法	村上 幸三	(東北大)
5.	15:10-15:30	インド仏教における菩薩論の展開	齋藤 滋	(日本学術振興会)
6.	15:35-15:55	瑜伽行派における十二分教考	堀内 俊郎	(東大)
7.	16:00-16:20	アティシヤに帰される vidhi 文献について	望月 海慧	(身延山大)
8.	16:25-16:45	チベットに伝わったジャータカ	梶濱 亮俊	(摂南大)
9.	16:50-17:10	チベット密教における死の理論とその文献的な典拠について	田中 公明	(東方研究会)

6 部会

総 206

17日(日)

- | | | | |
|----|-------------|-------------------------------|------------------|
| 1. | 9:00-9:20 | 宗教と科学の関連性における一考察—親鸞の真实性をふまえて— | 中山 彰信 (九州情報大) |
| 2. | 9:25-9:45 | 日蓮撰『一代五時鶏図』の題号について | 森 清顕 (立正大) |
| 3. | 9:50-10:10 | 日蓮『注法華経』と『雙紙要文』との関連 | 関戸 堯海 (立正大) |
| 4. | 10:15-10:35 | 日蓮宗教学史における本因本果下種論の本質 | 田村 完爾 (立正大) |
| 5. | 10:40-11:00 | 中世日蓮教団における葬送について | 寺尾 英智 (身延山大) |
| 6. | 11:05-11:25 | 日蓮の宗教性形成に関する社会構造的アプローチ | 笠井 正弘 (福岡医健専門学校) |
| 7. | 11:30-11:50 | 唱導家の語った「悪」「罪」—『法華百座聞書抄』を中心に— | 龍口 恭子 (東方学院) |
| 8. | 11:55-12:15 | 勇猛院日麗についての一考察—その弟子を中心として— | 木村 中一 (立正大) |
| 9. | 12:20-12:40 | 深草元政伝の一研究—陳元賛との交流— | 片桐 海光 (立正大) |

- | | | |
|-------------|---------------------------------|----------------------------|
| 14:00-16:00 | パネル: 修行と生活—インドの宗教を中心として— | 代表者: 西尾秀生, 5名, 120分 |
| | 上座仏教の修行と生活 | 平木 光二 (東方研究会) |
| | 律蔵における比丘の修行と生活 | 龍口 明生 (龍大) |
| | ジャイナ教の修行と生活 | 杉岡 信行 (東方研究会) |
| | オーロピンドの修行と生活 | 北川 清仁 (近大) |
| | コメンテータ・司会 | 西尾 秀生 (近大) |

18日(月)

午前 9:00-11:00

- | | | |
|--|----------------------------------|---------------------------|
| | パネル: モンゴル宗教と日本宗教—神観の比較考察— | 代表者: 氷見潔, 4名, 100分 |
| | 関係概念としての神観念 | 十津 守宏 (鈴鹿短大) |
| | モンゴル民族のムンフテンゲル主義—チンギスハーンの宗教観— | ゲ・ケレルハートル (ムンフテンゲル世界科学院) |
| | モンゴル神話と日本神話との類縁性について | 氷見 潔 (鈴鹿国際大) |
| | コメンテータ・司会 | 川又 俊則 (鈴鹿短大) |

- | | | | |
|----|-------------|-----------------------------|--------------------|
| 1. | 11:05-11:25 | 伊藤康善師の行実に関する一考察—『安心調べ』を中心に— | 太田 俊明 (西山浄土宗教学研究所) |
| 2. | 11:30-11:50 | 『鎮西国師絵詞伝』をめぐって | 郡嶋 昭示 (浄土宗総合研究所) |
| 3. | 11:55-12:15 | 法然と曇鸞教学 | 那須 一雄 |
| 4. | 12:20-12:40 | 浄土教にみる共生思想 | 糸原 恒久 (大正大) |

午後

- | | | | |
|----|-------------|------------------------------|----------------|
| 1. | 13:30-13:50 | 真宗における死に対する意識—大学での調査に基づいて— | 原田 哲了 (龍大) |
| 2. | 13:55-14:15 | 真宗大谷派の同朋会運動とその歴史 | 三浦 節夫 (東洋大) |
| 3. | 14:20-14:40 | 普及福音新教伝道会の真宗観 | 春近 敬 (大正大) |
| 4. | 14:45-15:05 | 真宗伝道に関する一考察—真宗教義における伝道の位置づけ— | 長岡 岳澄 (龍大) |
| 5. | 15:10-15:30 | 親鸞における語りえぬもの | 赤淵 弘祐 (龍大) |
| 6. | 15:35-15:55 | 『無量寿経』三毒五悪段について | 山田 恵文 (大谷大短大部) |
| 7. | 16:00-16:20 | 田辺哲学における親鸞思想理解 | 竹本 了悟 (龍大) |
| 8. | 16:25-16:45 | 親鸞における死の看取りについて | 安藤 章仁 (龍大) |
| 9. | 16:50-17:10 | 親鸞における信仰と死 | 加藤 智見 (東京工芸大) |

7 部会

総 202

17日(日)

1.	9:00-9:20	円仁と安然の一大円教について	土倉 宏 (東洋大)
2.	9:25-9:45	『七女経』の現存写本について	佐藤 もな (国際仏教学大学院大)
3.	9:50-10:10	『伝光録』における「夢」と「死」の関連について	宮地 清彦 (曹洞宗総合研究センター)
4.	10:15-10:35	時衆教学における機法一体について	長澤 昌幸 (京都西山短大)
5.	10:40-11:00	檀越たちをつないだ曇英慧応	伊藤 良久 (曹洞宗総合研究センター)
6.	11:05-11:25	禅トリックスター—普化と一休—	小林 圓照 (花園大)
7.	11:30-11:50	普寂の大乗仏説論	西村 玲 (日本学術振興会)
8.	11:55-12:15	存在の上昇—『法華験記』にみる法華経力の一断面—	間宮 啓壬 (身延山大)

14:00-16:00

パネル:スピリチュアルな問いへの応答

代表者:カール・ベッカー, 5名, 120分

末期癌患者の自己存在への問い
 葬送儀礼にみる遺族を取り巻く場の構造
 SOCを高める死生観の教育の在り方を探る
 スピリチュアルケア教育の課題

有田 恵 (京大)
 井藤美由紀 (京大)
 山本佳世子 (京大)
 安田 裕子 (日本福祉大)

コメンテータ・司会

カール・ベッカー (京大)

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル:どう死ぬか—現場から考える「宗教」研究—
 生を看取る—在宅ホスピスと宗教研究—
 今日の地域における共同性—在宅ホスピスの支えとして—
 死者に会い、死者を送る—岩手県宮古の葬送儀礼—
 魂を留める—吉田松陰の場合—
 在宅ホスピスの現場から見えてきたもの

代表者:竹之内裕文, 6名, 120分

諸岡 了介 (東北大)
 相澤 出 (爽秋会岡部医院)
 佐々木清志 (東北大)
 桐原 健真 (東北大)
 竹之内裕文 (静岡大)

コメンテータ

河 正子 (東大)

司会

竹之内裕文 (静岡大)

1.	11:05-11:25	ムハンマド風刺画問題についての一考察	八木久美子 (東京外国語大)
2.	11:30-11:50	中世イスラーム神学におけるイエス論	塩尻 和子 (筑波大)
3.	11:55-12:15	不死の意味をめぐる—スーフィーとヨーギンの対話—	榊 和良 (北海道武蔵女子短大)
4.	12:20-12:40	現代に生きるスーフィズム	中村廣治郎 (桜美林大)

午後

1.	13:30-13:50	宗教教育・宗教科教育・宗教の教育における宗教の取扱いの異同点	小山 一乗 (関東短大)
2.	13:55-14:15	日本的靈性と現行憲法・教育基本法改正の主要問題	工藤 亨
3.	14:20-14:40	宗門系大学と宗教学	林 淳 (愛知学院大)
4.	14:45-15:05	近代初期イギリスの宗教教育における死生観言説	大澤千恵子 (東大)
5.	15:10-15:30	院政期宮中祭祀の一考察—藤原忠通を中心に—	山口 剛史 (皇學館大)
6.	15:35-15:55	日本における江西派風水の受容について	鈴木 一馨 (東方研究会)
7.	16:00-16:20	中世における武将と軍神の関係について	相澤 秀生 (駒大)
8.	16:25-16:45	葬送における遺品処理—禅宗清規における唱衣法について—	金子 奈央 (武蔵野大)
9.	16:50-17:10	近世仏教墮落論の近代的形成	オノン・クラウツ (東北大)
10.	17:15-17:35	秋葉寺の神仏分離について	吉田 俊英

8 部会

17日(日)

1.	9:00-9:20	癒し人が殺人者となる時—ナチズムにおける医師犯罪を見つめて—	澤田 愛子	(県立長崎シーボルト大)
2.	9:25-9:45	小児患者の家族の死生観と臓器移植問題	海山 宏之	(茨城県立医療大)
3.	9:50-10:10	イスラームと最先端医療—ファトワーにみる脳死と臓器移植—	嶺崎 寛子	(お茶の水女子大)
4.	10:15-10:35	宗教と安楽死	岡田 聡子	(筑波大)
5.	10:40-11:00	カトリック倫理における安楽死問題	金 永晃	(大正大)
6.	11:05-11:25	日本の生命倫理学者・仏教者が語るバイオエシックス言説の特徴	山本栄美子	(東大)
7.	11:30-11:50	モダンティと無縁の身体—流産を事例に、身体論の地平を再考する—	山口 勇人	(九大)
8.	11:55-12:15	韓国の生殖技術と再生医療—凍結受精卵幹細胞にみる生命の諸相—	淵上 恭子	
9.	12:20-12:40	生命倫理の形成と宗教の役割	宇都宮輝夫	(北大)

14:00-16:00

パネル: 宗教とツーリズム—聖なるものの「現在」をめぐって—		代表者: 山中弘, 6名, 120分
宗教とツーリズムをめぐって	山中 弘	(筑波大)
観光地としての江ノ島の展開	森 悟朗	(國學院大)
四国遍路の今日的展開—二極化する巡礼実践—	浅川 泰宏	(明治大)
観光戦略としての宗教—長崎におけるキリシタンをめぐって—	松井 圭介	(筑波大)
長崎の教会群と世界遺産	木村 勝彦	(長崎国際大)
	コメンテータ	橋本 和也 (京都文教大)
	司会	山中 弘 (筑波大)

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル: 公共空間と宗教の変容—フランスの事例を出発点に—		代表者: 竹沢尚一郎, 6名, 120分
ポスト世俗化状況と集会的記憶—D.エルヴェ=レジェの理論—	岡本 亮輔	(筑波大)
マルセル・ゴーシェの宗教論—ライシテのロジックの歴史的変遷—	伊達 聖伸	(リール第三大)
公開空間への私事の「現れ」—「傷病者の塗油の秘跡」改革—	寺戸 淳子	(専修大)
宗教におけるナショナルなものとユニヴァーサルなもの	竹沢尚一郎	(国立民族学博物館)
	コメンテータ	八木久美子 (東京外国語大)
	司会	近藤 光博 (日本女子大)

1.	11:05-11:25	新宗教とビジネス哲学—ワールドメイトの事例を中心に—	川上 恒雄	(南山大)
2.	11:30-11:50	宗教集団における虐待の構造—特定教団を事例に—	櫻井 義秀	(北大)
3.	11:55-12:15	新宗教運動の教団ライフコースにおけるカリスマの死と継承	塚田 穂高	(東大)
4.	12:20-12:40	新宗教教祖伝の成立について	宮本要太郎	(関西大)

午後

1.	13:30-13:50	西田天香の女性観—『天華香洞録』の記述から—	川瀬 貴也	(京都府立大)
2.	13:55-14:15	ポピュラー・カルチャーにおける新しい共同体の構築	今井 信治	(筑波大)
3.	14:20-14:40	祭儀と交流—祭りの果たす役割—	野村 誠	(共愛学園前橋国際大)
4.	14:45-15:05	臨終表現への依存	神居 文彰	(佛教大)
5.	15:10-15:30	「いのちの敬虔の思想」における死の問題—神道はニヒリズムか—	吉田喜久子	(人間環境大)
6.	15:35-15:55	二つの生命を生きるということ—現代宗教の可能性—	中村みどり	(京大)
7.	16:00-16:20	宗教的倫理としての不殺生と非戦	菱木 政晴	(同朋大)
8.	16:25-16:45	「心のノート」は「いのち」をどう伝えているか	弓山 達也	(大正大)
9.	16:50-17:10	スピリチュアリティ(霊性)・宗教性・倫理	樫尾 直樹	(慶大)
10.	17:15-17:35	伝記的自省とスピリチュアリティ	井門富二夫	(筑波大)

9 部会

17 日(日)

1.	9:00- 9:20	現代カトマンズ溪谷の死者儀礼	杉木 恒彦 (東大)
2.	9:25- 9:45	スリランカ仏教における葬送儀礼と死の問題	神谷 信明 (岐阜市立女子短大)
3.	9:50-10:10	タイ上座仏教と国家	矢野 秀武 (駒大)
4.	10:15-10:35	シンガポール・ヒンドゥー社会における女神祭祀とボランティア	岡光 信子 (仙台大)
5.	10:40-11:00	東南アジア華人社会と伝統宗教—シンガポール道教寺廟の一事例—	山下 博司 (東北大)
6.	11:05-11:25	台湾における生と死の教育—教育の現場から—	洪 鴻榮 (アジア大)
7.	11:30-11:50	雑誌『朝鮮仏教』にみる肉食妻帯問題	辻村志のぶ (日本学術振興会)
8.	11:55-12:15	檀君の包摂—韓国宗教に対する日帝の学問的な牽制—	沈 善瑛 (日本橋学館大)
9.	12:20-12:40	12 世紀末までの新羅・高麗仏教に対する認識研究の手法と意義	福士 慈稔 (身延山大)

14:00-16:00	パネル: 聖地・慰霊・宗教的ナショナリズムの再構築	代表者: 中野毅, 6 名, 120 分
	戦犯の墓碑を支える人々—興亜観音・殉国七士の碑をめぐって—	加藤 信行 (創価大)
	戦地巡礼と記憶の再構成	栗津 賢太 (創価大)
	戦争死者をめぐる無縁空間と権力空間	西村 明 (鹿児島大)
	場所の記憶と中心の再構築—沖縄意識の形成と観光という舞台—	平良 直 (八洲学園大)
	公共記憶と和解のために	稲垣 久和 (東京基督教大)
	コメンテータ・司会	中野 毅 (創価大)

18 日(月)

午前 9:00-11:00

	パネル: 現代沖縄の死者慣行にみる「本土化」と「沖縄化」	代表者: 鷺見定信, 6 名, 120 分
	沖縄死者慣行における伝統の「本土化」と「沖縄化」	鷺見 定信 (大正大)
	仏教信仰教化儀礼の沖縄的受容—「五重相伝会」受者の意識変化—	武田 道生 (大正大)
	本土復帰と沖縄葬制の変容—那覇周辺地域における墓地の現状—	村上 興匡 (東大)
	沖縄全戦没者追悼式前夜祭にみる死者への思念表象	佐藤 壮広 (大正大)
	コメンテータ	小熊 誠 (沖縄国際大)
	司会	鷺見 定信 (大正大)

1.	11:05-11:25	E.W. サイドの「オリエンタリズム」思想	三浦 美紀 (筑波大)
2.	11:30-11:50	欧米の陰謀論の日本における受容と変容	辻 隆太朗 (北大)
3.	11:55-12:15	民族紛争の本質構造	黒川 知文 (愛知教育大)
4.	12:20-12:40	軍葬—現代アメリカ軍における死者の追悼—	石川 明人 (北大)

午後

1.	13:30-13:50	政教分離と「民俗宗教」	中西 裕二 (立大)
2.	13:55-14:15	移行期モンゴルの宗教言説—民主化から宗教法成立まで—	滝澤 克彦 (東北大)
3.	14:20-14:40	日本キリスト教団における聖霊運動	尾本 久美 (大正大)
4.	14:45-15:05	キリスト教からキリスト教文化へ—米国社会福音とリベラル神学—	佐藤 清子 (東大)
5.	15:10-15:30	ブラジル・カトリック教会の今日的展開	山田 政信 (天理大)
6.	15:35-15:55	ハワイ日系移民社会における日系新宗教の展開	高橋 典史 (一橋大)
7.	16:00-16:20	ジャマイカのチャイニーズのネクロポリス・プロジェクト	柴田 佳子 (神戸大)
8.	16:25-16:45	宗教者の「老後」—現代日本のキリスト教界の動向を中心に—	川又 俊則 (鈴鹿短大)
9.	16:50-17:10	宗教者の老後問題—仏教界の現状と動向—	平子 泰弘 (曹洞宗総合研究センター)
10.	17:15-17:35	「わたしたち」の宗教法人—行者仏教研究の視点から—	加藤 之晴 (駒大)

10部会

17日(日)

1. 9:00-9:20	宗教民俗の歴史的動態—福岡県二丈町「大飯食らい」を中心に—	白川 琢磨 (福岡大)
2. 9:25-9:45	富士講取締令について	大谷 正幸 (総合研究大学院大)
3. 9:50-10:10	開帳儀礼が意味するもの—信州善光寺の場合—	小林 順彦 (大正大)
4. 10:15-10:35	身延七面山「うつし霊場」の事例	望月 真澄 (身延山大)
5. 10:40-11:00	伝統仏教教団における聖地形成—明治期・知恩院を事例として—	江島 尚俊 (大正大)
6. 11:05-11:25	聖地の近代—修験霊山の表象—	山口 正博 (國學院大)
7. 11:30-11:50	日本海沿岸漁村にみる善宝寺信仰の位置	阿部 友紀 (東北大)
8. 11:55-12:15	善寶寺開基妙達上人の坐禪石について	渡部 正英 (駒大)
9. 12:20-12:40	天理市内の鍾馗信仰について	窪 徳忠 (東大)

14:00-16:00

パネル:戒と死—比較宗教の視点から—

代表者:市川裕, 4名, 100分

仏教における戒と死
キリスト教の修道制と禁欲
戒としてのシャリーアの意義

松尾 剛次 (山形大)
田島 照久 (早大)
鎌田 繁 (東大)
市川 裕 (東大)

コメンテータ・司会

18日(月)

午前 9:00-11:00

パネル:死後生という主題—近現代の諸アプローチとその射程—

代表者:津城寛文, 6名, 120分

マイヤーズ問題—スピリチュアリズムと心霊研究の間で—
「死後生」問題と心霊研究—W.ジェイムズの場合—
G.マルセルの思想と霊媒体験
心理主義と心霊主義—ユングにおけるその理解と留保の文脈—
生の形成者としての死—ジンメル死／不死性論—

津城 寛文 (筑波大)
堀 雅彦 (札幌学院大)
藤本 拓也 (東大)
葛西 賢太 (宗教情報センター)
深澤 英隆 (一橋大)
鶴岡 賀雄 (東大)
津城 寛文 (筑波大)

コメンテータ
司会

午後

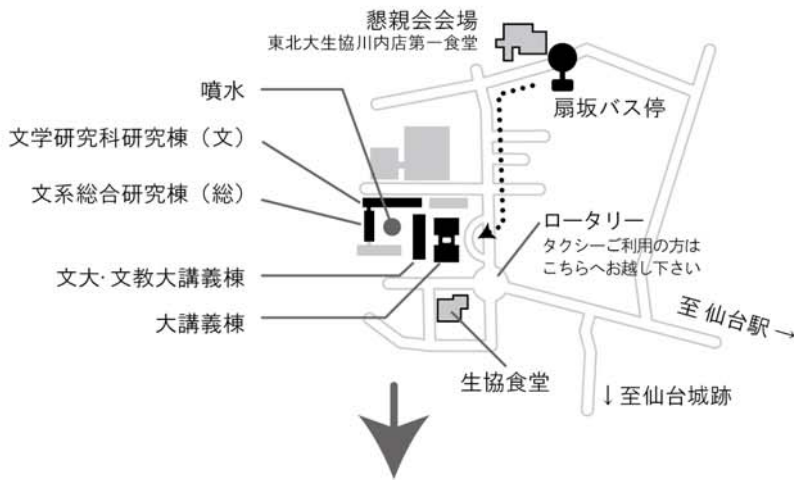
1. 11:05-11:25	民俗文化の資源性におけるスピリチュアリティ	長澤 壮平 (筑波大)
2. 11:30-11:50	呪法書からみた近世日本の呪術実践	小池 淳一 (国立歴史民俗博物館)
3. 11:55-12:15	護法信仰の境界性—説話表現における生と死をめぐる—	横井 教章 (曹洞宗総合研究センター)
4. 12:20-12:40	神楽による死霊の供養—西日本と南中国の事例から—	三村 泰臣 (広島工業大)
1. 13:30-13:50	国内における供養モニュメントの種類と分布	中牧 弘允 (国立民族学博物館)
2. 13:55-14:15	近代会津における戦死者と「非業さ」	田中 悟 (神戸大)
3. 14:20-14:40	死者を描き奉納すること—岩手県遠野地方の絵額奉納から—	山田 慎也 (国立歴史民俗博物館)
4. 14:45-15:05	沖繩戦「未亡人」をめぐる死の現在—位牌・墓問題を中心に—	石附 馨 (阪大)
5. 15:10-15:30	戦後台湾における「日本人」慰霊の諸相	藤井 健志 (東京学芸大)
6. 15:35-15:55	事故被害者の慰霊—JAL123 便事故を事例として—	名和 清隆 (大正大)
7. 16:00-16:20	「家庭内」死者祭祀の多様化—仏壇(位牌)から遺骨祭祀へ—	井上 治代 (東洋大)
8. 16:25-16:45	軍用動物の死と慰霊	佐藤 千尋 (東北大)
9. 16:50-17:10	「生花供養」の起源と意味	中村 憲司 (大正大)
10. 17:15-17:35	殺生罪業観と草木成仏思想—日本宗教の環境論的考察のために—	中村 生雄 (学習院大)

「抜き刷り等配布場所」利用規定

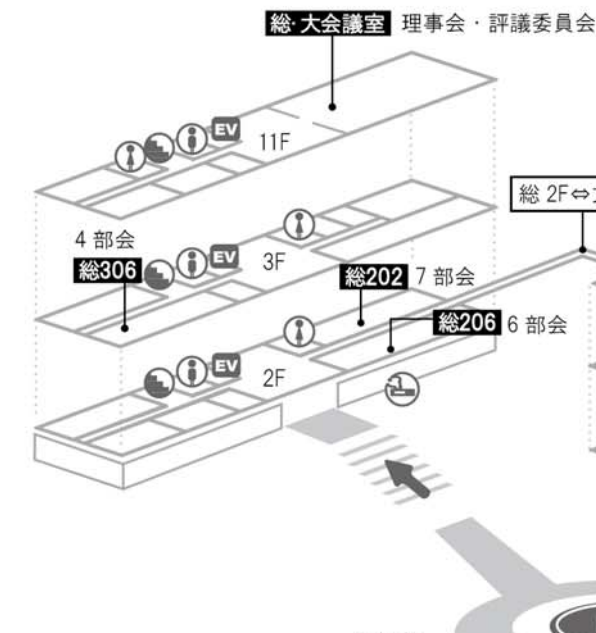
- ◆ 本学術大会においては、参加者相互の情報交換を促進するため、ご持参の抜き刷り等を置いていただき、ご覧になった方々に自由にお持ち帰りいただける場所を会員控え室(経済学部第 1 講義室)内に設けます。
- ◆ この場所は、昨年度の学術大会(於 関西大学)において出された要望に対応し、設けるものです。
- ◆ 大会実行委員会(東北大学)側としては、この場所をご提供はいたしますが、何らかのトラブルが発生した場合の責任は負いかねます。
- ◆ 前もって抜き刷り等を事務局あてに送られても、お受けできませんので、ご注意ください。
- ◆ この場所は、9月16日(土)14:00 から18日(月・祝)17:45 まで開放します。開放時間が終了した時点で放置されていた残部につきましては、実行委員会で処分させていただきますので、ご了承ください。

日本宗教学会 第65回学術大会実行委員会

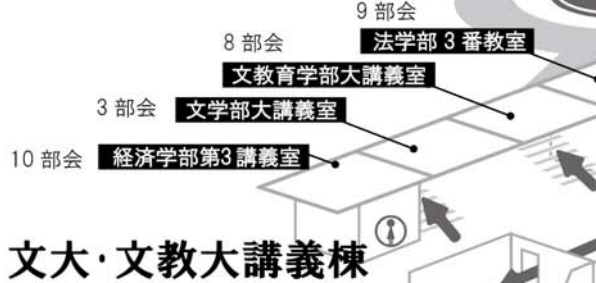
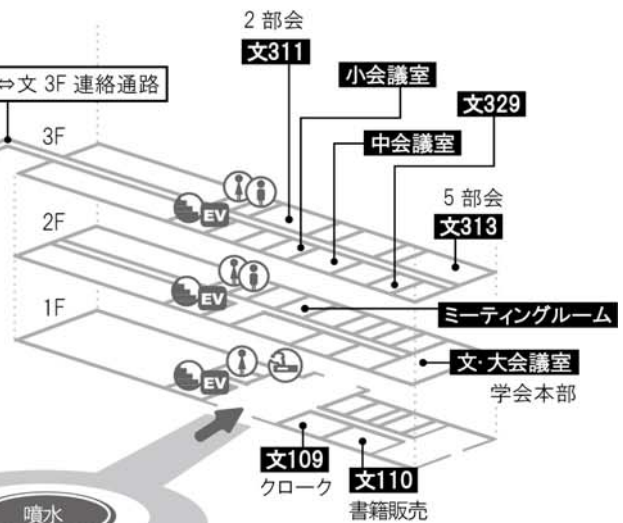
川内南キャンパスのご案内



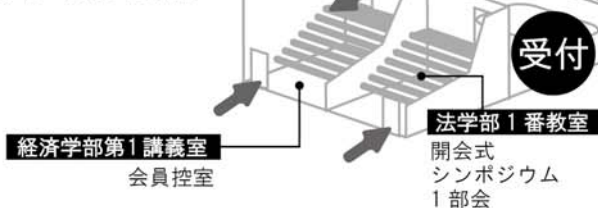
文系総合研究棟 (総)



文学研究科研究棟 (文)



大講義棟



- 喫煙所
- 女性 WC
- 男性 WC
- エレベーター
- 階段